

山元町/災害対策本部運営システムの導入

事例概要

リアルタイムかつ正確な情報の一元的収集・管理・展開を目的に
 クロノロジー型危機管理情報共有システムを導入。
 災害情報収集から災害対策本部運営までの情報一元管理・共有を達成。

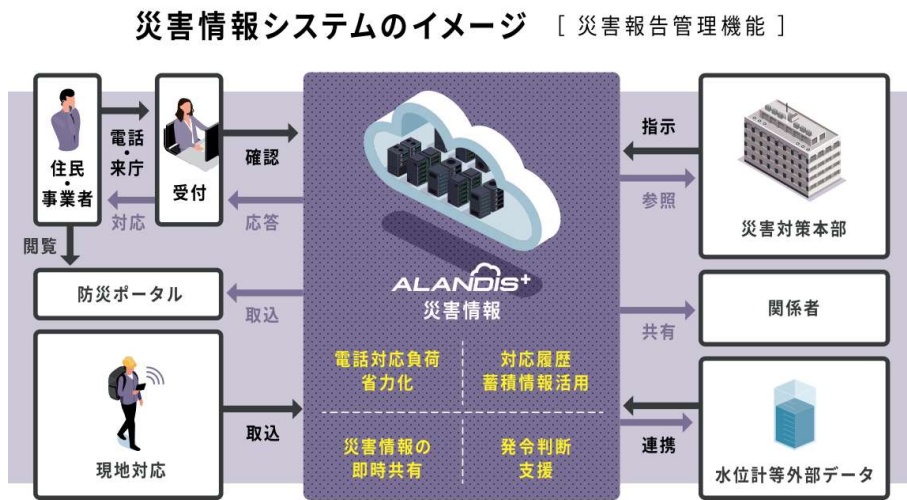
導入前

- 地方公共団体等ニーズ： 災害情報収集から災害対策本部運営までの情報一元管理による、災害対応の円滑・迅速化。
 - 上記ニーズの背景： 令和元年の台風対応や令和3・4年の福島沖地震等の災害対応にて情報収集・分析・発信に課題が発生。首長指示により対策を検討。
 - 防テクPF活用理由： ①様々な企業のアイデアを聞きたい。
 ②上記を踏まえ発注仕様をブラッシュアップしたい。
- ※デジタル田園都市国家構想交付金を活用。交付金申請に向けた情報収集のため短期間での情報収集が必要。

防テクPFの活用状況

- 防テクPF活用メリット： 企業の提案を募集し、複数社のアイデアを踏まえ解決方法を模索できた。
- スケジュール： 令和4年度にマッチングセミナー個別相談会に参加。令和5年度に補正予算措置、事業化。

導入技術概要



マッチング先(アジア航測株)HPより抜粋

主なシステム機能は発令判断情報の表示、災害情報の共有、避難所運営の支援、備蓄品管理、情報のワンオペレーション配信、システムと連携した情報公開防災ポータル等既存のパッケージをベースに追加機能を導入検討。

防テクPFの貢献

様々なアイデア収集や短期システム構築に向け、防テクPFを活用。
 マッチング企業と情報交換で仕様の作りこみ、防テクPFを通じて
 情報探索・事業化を短時間で実現。

